



くまざわ なおき

熊沢直紀 議員

KUMAZAWA Naoki

Q. 豊山スカイプールの今後は

A. 方向性を慎重に検討

鈴木前町長は、今後40年間公共施設の建て替えなどで328億円必要であり、財政難になる。よって、指定管理者との契約期間が終了する令和6年度をもってスカイプールを廃止することであった。9月議会においても、教育委員会がプールを廃止するとの答弁後、町長の答弁として、休止することであった。令和7年度は新たに条例を改正して、町内・町外の使用料の差額を設け、値上げを行い、試験的に開場してはとの質問に「行わない」との冷たい答弁であった。

◎ 服部新町長は豊山スカイプールを今後どのようにしていけるのか尋ねる。

▲ 町長 スカイプールは住民の皆さまからのご意見をしっかりと受け止め、再開を含めた方向性を慎重に検討して行く。

施設の安全性確保や運営財源の確保が課題であり、改修費用や利用料金の見直し、駐



車場確保策などを含む具体的な計画を進めていく。また、町外利用者の料金設定を含む持続可能な運営手法の模索も進めていく。



豊山スカイプールの今後は

Q. 中学校校舎の建て替えは

A. 築80年までを目安に運用

鈴木前町政では、1963年に建築された中学校は、築後61年過ぎたから建て替えなければならないとのこと。「多くの改造費および修繕費をかけている中学校を60年を経過したから取り壊して建て替えしなければならないのか。まだ本体はしっかりしており、十分使用可能ではないか。」との質問をしたが、前町長はすみやかに建て替えを検討していくとのこと。

◎ 服部新町長の考えを伺う。

▲ 町長 極めて大きい財政負担が生じると考えられる豊山中学校の改築事業については、町財政の持続可能性の観点からその計画の見直しを行う。今回、中学校の改築基本計画を



中学校校舎の建て替えは

見直しする大きな理由は、臨空第2公園の整備と並行して改築を行うには財政負担が大きすぎることである。したがって、まずは、臨空第2公園の整備を推進し、中学校については、随時補修などで対応しつつ築80年までを目安に運用し、改築を検討していく。